

平成 28 年度 第 1 回 成増高齢者在宅サービスセンター 運営推進会議 議事録

平成 28 年 12 月 27 日 (火) 14 : 00 ~ 15 : 10

参加者 : 【A 地域包括支援センター 所長】

【B 地域包括支援センター 所長】

【C 小学校 校長】

【D 地区民生委員】

【高齢者住宅 管理人】

【ご利用者 家族】

【地域住民】

【成増高齢者在宅サービスセンター 所長】 樋口

1. 事業所責任者挨拶

樋口より本日お集まりいただいたお礼と参加者のご紹介。

また、開始時に認知デイご利用者に参加者へお茶とお菓子の準備・配膳をして頂く。

2. 運営推進会議の目的

今回の会議は、私たちの日々のサービス内容を明らかにすることにより、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質を確保することを目的としています。成増・三園地区における当事業所の活動意義と、担うべき役割をご理解ならびにご教示頂き、地域との連携による適正な運営確保を目指して参ります。

3. 成増高齢者在宅サービスセンター平成 28 年度事業計画ならびに現状報告

- ・平成 28 年度事業計画
- ・役割支援型サービスの紹介
- ・4 月からの利用者状況

	【登録人数】	【稼働率】	【平均介護度】
4 月	10 人	42.3%	3.6
5 月	9 人	41.9%	3.8
6 月	9 人	38.5%	3.7
7 月	9 人	36.9%	3.8
8 月	8 人	35.9%	3.4
9 月	9 人	35.0%	3.4
10 月	9 人	38.1%	3.4
11 月	10 人	38.9%	3.3

#### 4. 意見交換会（認知症高齢者の支援について）

各人自分の立場から、上記テーマについて意見を述べていただいた。

##### 【A地域包括支援センター】 A様

初期の認知症の方をいかに発見しアプローチ出来るかが重要だと感じている。そのためには地域の力が不可欠である。

##### 【B地域包括支援センター】 B様

私たち包括の職員では繋ぐことのできない部分を民生委員や地域住民の方に支えてもらっている。

##### 【C小学校校長】 C様

子供と高齢者には共通点があるように感じた。しかし大きな違いは支援する側の人間が経験をしているか、していないか、であるのではないか。（支援者にとって認知症は未経験のものである）

##### 【D地区民生委員】 D様

民生委員の立場としては地域の高齢者の変化を第一に発見するという役割があると認識している。それでも人数が多く全件回りきれない現状や制度などによる縛りで思うようにいかないのが現状・・・。

##### 【高齢者住宅管理人】 E様

高齢者住宅の管理人として独り暮らしの方の支援の必要性を感じている。認知症を発症するとこれまで以上に不安が強くなっている様子。こちらに変化に気付いた時にどこまで介入するべきか迷う事がある。

##### 【ご利用者家族】 F様

言動がおかしくなってきた当初、認知症の診断を受けるために病院へ行くのが大変だった。地域包括の職員へ何度も相談をした結果、病院受診する事が出来て薬も処方された。今も変わらずだがデイサービスをはじめ沢山の方に助けて頂いている。

##### 【地域住民】 G様

認知症の事やデイサービスのことなど知らない事ばかりだが、他人事ではないという事が分かった。地域住民としていざという時に役立つことが出来るようにこれからもいろいろ学んでいきたい。

#### (総括)

参加者全員から認知症支援の必要性について同意を得る事ができ、自事業所の取り組みに対しても賛同して頂く事ができた。認知症を支援する側・支援を受ける側、それぞれの立場からの課題も見え、高齢者支援という観点では事業所単体ではなく地域が一体となって取り組む事で高齢者の住みやすい街づくりの実現が可能であると考えます。

以上